

都難言協会報

東京都公立学校難聴・言語障害教育研究協議会

難言教育の更なる充実を目指して

東京都公立学校難聴・言語障害教育研究協議会

会長 鈴木 稔 (目黒区立東根小学校長)



難言学級では、聞こえにくさに伴う課題や、発話等の言葉に関する課題の改善を図りながら、子どもたちのコミュニケーション能力を伸ばし、集団生活での適応力を高めるための指導を行います。それは、子どもたち一人一人が自信をもち、積極的に人と関わり、自分の気持ちをのびのびと表現できること、その結果として、子どもたちが明るく楽しい学校生活を送れるようにするためです。

まずは、各学校単位だけでなく、都難言協で行われる、多くの研究・研修の機会を活用し、一人一人の専門的な知識を深め、指導力の向上を目指してまいります。そして、子どもたち一人一人の現状に合わせた適切な且つ効果的な指導を実践します。

東京都には、聞こえや発話等について人知れず困っている子どもがまだまだ潜在しています。

都難言協の活動を通して、難言学級の教育活動や児童の実態をもっと広く保護者、小中学校の在籍学級の先生方、教育行政に携わる方々に周知し、必要な子が必要な教育を受けられるようにしたいものです。

今年度も、会員の力を結集し、充実した教育活動・研究・研修ができるよう、努めてまいります。

各校・関係機関の皆様には、これまでと変わらぬご理解とご協力をいただければ幸いに存じます。

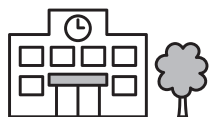


❖ 新設学級紹介 ❖

品川区立豊葉の杜学園 きこえの教室

品川区では、後期課程（中学校）において初めて開級した「きこえの教室」です。大井町駅から徒歩12分、東急線下神明駅から徒歩2分のところにあり、近くを新幹線が走っています。

豊葉の杜学園は開校6年目を迎える、児童生徒数921名の義務教育学校です。区内の小中学校には難聴学級がありましたが、中学校にはなかったもので、中学生になると、他区の難聴学級に通級していました。豊葉の杜学園にきこえの教室ができ、保護者の方にとっても喜んでいただきました。お子さん一人一人のニーズに応じたきめ細やかな指導を目指します。



❖ 学級紹介 ❖

立川市立第八小学校 きこえとことばの教室

42年間続いた立川市立けやき台小学校「きこえとことばの教室」は、統廃合により、今年度、けやき台小から第八小学校に移転しました。特別教室棟の1・2階が当教室の施設です。新しい施設は、どの部屋も明るくきれいで、好評です。2つの広いプレイルーム、落ち着いた空間の個別指導室、調理もできるグループ指導室、箱庭室…。広くなった待合室は、幼児さんが遊べるスペースもあります。

これからは、この新しい施設で、担任7名、通級してくる子どもたちと共に、新しい歴史を作っていこうと思います。



都難言協
全体研究会
講演会

ワーキングメモリの特徴とその支援

くきこえとことばの教室でできること

広島大学大学院教育学研究科 湯澤 正通 教授



一、ワーキングメモリとは

ワーキングメモリとは、短い時間の中で情報を保持し、同時に処理する「脳の作業場」です。そして、ワーキングメモリは知識を学習し脳の長期記憶へ蓄える「入り口」です。しかし、その「入り口」の大きさが個人によって違います。このように入り口の大きさの小さい子供の支援をするのが、先生方の仕事です。

ワーキングメモリは思考と行動の制御に関わる実行機能の一つです。実行機能には3つの要素（抑制・更新・シフト）があり、学習を始める前提となる態度（抑制・シフト）があつて、ワーキングメモリ（更新）がうまく働き、はじめて授業の中の学力が身に付いていきます。

二、ワーキングメモリモデルとアセスメント

ワーキングメモリのモデルは、

3つの構成要素が結びついたシステムです。「言語的短期記憶」は、数、単語、文章などの音声情報に関わります。「視空間的短期記憶」は、イメージ、絵、など視覚的情報を司り、「中央実行系」は注意をコントロールし、高次の処理に関わっています。それぞれの子供のもっている強さを生かせるよう検査指標としてEDUCROMを作成しました。ワーキングメモリについては、4つの側面から測定することが可能です。ワーキングメモリは年齢と共に直線的に発達しますが、同じ年齢でも大きな個人差があります。

三、ワーキングメモリアセスメントによる学習障害の早期発見と支援

小学校入学直後のワーキングメモリのアセスメントが、学期末の読み成績を予測するという研究結果が出ました。

ワーキングメモリ容量が小さい

と分かった子供へ特殊音節・漢字の支援を行う試みをしています。

読み書きが苦手な子供に対して歌や踊りを用いて学習を進めたりもしています。学習の差はなかなか縮まりませんが、早期に子供の学習障害のリスクを発見するということは、その子供への早期支援につながるので、意義深いことです。今は研究の途上です。

四、ワーキングメモリ理論に基づいた学習支援方略

ワーキングメモリ理論に基づいた学習支援方略の分類（授業のユニバーサルデザイン）は、情報の整理・情報の最適化・記憶のサポートという観点から4つの支援方法に分類することができます。

（一）情報の整理（二）情報の最適化（三）記憶のサポート（四）注意のコントロールです。（一）は情報の構造化と多重符号化の二つです。音声からの情報が強い子供、イメージからの情報が強い子供がいますが、例えば、授業で何をしているのか発問するだけでなく、同時に黒板でも示していくことが大事です。（二）は、スモールステップでの指導や細分化された情報を適宜統合すること、子供

のワーキングメモリを考慮して時間のコントロールをすることです。（三）は長期記憶の活用などで、例えば、子供が知っている身近なもので教材を作ると内容がすつと入りやすくなります。（四）は選択的注意・自己制御への支援です。何をすべきか課題の目的に着目する、自ら学習に取り組んでいけるよう、子供自身が学習の理解度や進度をモニタリングしたり、効果的な学習方法を積極的に採用したりできるように促していくことです。

ワーキングメモリ理論に基づいた学習支援方略を、授業チェックリストにまとめました。通常の学級の先生にもご紹介していただきたいです。発達障害のある子供にとつて分かりやすいものは、一般の子供にも分かりやすいのです。また、目標を授業の最初に提示することは、先生が授業中多くの事を話しても、子供がその目標に沿って情報を選択して覚えておけるようになるので、有効です。そういう意味を教師が理解し、課題解決に向けての目標であること子供にきちんと意識させることが大事になります。

（文責 田中 健太）

都難言協
第1回
専門研究会

発達障害当事者に見られる

感覚の過敏と身体症状

東京学芸大学 高橋 智 教授



感覚の過敏、それによる困りごとなど、発達障害者の抱える困難は理解されにくく、求めている支援やニーズに適切に対処されないことが多くあります。そこで、身体の不調、不具合などの身体症状に関する調査を行いました。

「心のチェック」

うつやパニックになる人が多いです。自律神経系がうまく働かず、体温調節ができない、眠れない人も多いです。寝ようとすると、嫌な体験が繰り返し出てきて眠れないのです。不適切な環境が要因となつていきます。

「感覚器のチェック」

視知覚の問題、聴覚系の問題をもつ人が多いです。突然の声かけや叱声、運動会の物音に弱い人もいます。脳の島皮質の過活動の他、見通しのない不安定な生活を送っていることも過敏さに影響しています。

「内臓系のチェック」

頻繁にお腹をこわし、通勤や通学時の排泄に問題を抱えることも多いです。小学生の頃から対応を考えていくことが大切です。過集

中により、トイレに行くことを忘れてしまったり、膀胱のシグナルに脳が反応しにくかったりもします。

「食の過敏」

偏食が生理学的な問題であると認識されずに、食べることを強要されて、食べることへの不安や恐怖を引き起こしているケースがあります。不安や恐怖をよく聞くことが重要です。

調査を総合すると発達障害者は大変疲れやすいのだということが分かります。発達障害は、元々の特性によるものだけではなく、強い躰や一方的で強制的な指導による二次的障害の結果とも捉えられます。周囲の対応で、過敏さは軽減されます。子供自身には不調の原因が分かりません。しばしば医療の問題だと捉えがちですが、子供にとつて安心できる場所があると実感されるだけで、結果は違ってくると思います。「発達障害は発達する」と考えて、特性を障害にしないことが支援であると思います。

(文責 田中 健太)

吃音について

◇保護者の声◇

ことばの教室に通い始めたおかげで、これまで知らなかった吃音の情報や症状への対応を知ることができ、他の保護者と交流することでいろいろ考えさせられることがありました。

先日の親子交流会での、吃音について家族で話題にしている話は、とても参考になりました。我が家では、触れてはいけない部分だと何となく過ごしてきたので、タイミングをみて本人に話しかけてみるのも良いかなと思っています。「あなたの話し方、お母さんとても好きよ。」の一言を忘れずに…子供の性格や症状、環境によって考え方は、様々。我が子がいづれ吃音で悩む時期が来たとしても、本人が自分で葛藤して受け入れ、消化できるようになることを見守っていきたいです。そして、親は余計な心配をしすぎず、何か起きたときに対処する心構えでいようと思います。

◇担任の先生方へ◇

吃音のある児童・生徒への配慮について

吃音のある児童・生徒の悩みは、一人一人違います。その子のよさを認め、ゆったりとした関わりの中で、気軽に思いを話せるような雰囲気があると自分らしく学校生活を送ることができます。

- 話し方ではなく、話の内容を受け止めてください。「ゆっくり」「落ち着いて読んで」などの注意をしたり、スラスラ話せたことをほめたりするのではなく、話の内容や意欲をほめてください。
- 「つかえてもいいんだよ」という気持ちで接してください。つかえても、先生やクラスの子が、最後まで待っていてくれると、安心して話すことができます。
- 子供の思いに耳をかたむけてください。音読では、誰かと声をそろえると読みやすくなることが多いです。楽に発表できる方法は子供によって様々です。その子にあった音読や発表の仕方を話し合ってください。

都難言協では、中学校・高等学校の先生方に向けた吃音を正しく理解するためのリーフレットを作成しました。都難言協のホームページ「広報」のページからも、ダウンロードができます。

<https://www.tonangen.com/koho>

専 門 委 員 会

■研究推進委員会

難言教育には専門的な知識と技能が必要不可欠です。

そこで着任一〜三年の教員向けの「基礎研究会」、より専門性の向上を目指す教員向けの「事例研究会」「課題研究会」、難言の全教員向けの「専門研究会」を企画運営しています。今年度も充実した研修・研究が行えるよう努めていきます。

■調査・対策委員会

難言学級の実態を把握し、指導をより充実させるため、課題の解決に向けて活動しています。

- ・ 基本調査の集計、結果の報告
- ・ 都、区市教委への「提案書」作成
- ・ 都教育委員会との意見交換会参加
- ・ 関係団体との合同研究会の記録

■広報委員会

会員の皆様に役立つ、様々な情報を発信しています。

- ・ 会報（年二回） ・ 紀要
 - ・ 継送電話連絡網 ・ 設置校一覧
- それぞれにつきまして、お気づきの点がありましたら、広報委員会までお知らせください。

担当、文京区立金富小学校ことばときこえの教室 伊勢

大会・学会・研究会などのお知らせ

第47回全難言協全国大会（福島）

【大会主題】 ことばと思いを育む 輝く笑顔のために
～子どもたちの思いやニーズに寄り添う指導や支援をめざして～
【日程】 7月26日（木）・27日（金）
【会場】 コラッセふくしま
【問い合わせ先】 大会事務局長 安藤 順子
（福島市立福島第四小学校 ことばの教室）
〒960-8001 福島市天神町11-31
TEL：024-534-0141
E-mail:fukushima4-e@fukushima-city.ed.jp

第52回全日本聾教育研究大会（北海道大会）

【テーマ】 「言語活動の充実と学力の育成を目指して」
～聴覚障がい教育の専門性の
継続的発展と多様化への対応～
【日程】 10月4日（木）・5日（金）
【会場】 北海道高等聾学校、北海道札幌聾学校、
会議・研修室ACU
【問い合わせ先】 〒047-0261 北海道小樽市銭函
1丁目5-1北海道高等聾学校内
TEL：0134-62-2624 FAX：0134-62-2663
E-mail:zennichiro@hokkaido-c.ed.jp

全難言協夏期全国研修会「はじめのいっぽ2018」

【日程】 8月1日（水）～3日（金）
【会場】 国立オリンピック記念青少年総合センター
【問い合わせ先】 世田谷区立烏山北小学校
きこえとことばの教室（大井）
〒157-0061 東京都世田谷区北烏山6-3-1
TEL：03-3309-3420（教室直通）

第51回全国情緒障害教育研究協議会（広島大会）

【日程】 9月15日（土）～16日（日）
【会場】 JMSアステールプラザ大ホール他
日本自閉症協会全国大会と同時開催
【問い合わせ先】 都一般財団法人
日本自閉症協会（担当：小松）
TEL：03-3545-3380 FAX：03-3545-3381

第51回日本言語障害児教育研究大会

【日程】 8月6日（月）・7日（火）
【会場】 国立オリンピック記念青少年総合センター
【問い合わせ先】 櫻井 正二郎
〒276-0041 千葉県八千代市麦丸1136-2
FAX専用：047-409-0512

事務局より

今年度の事務局は、江南ブロックと次期事務局の江東ブロックの一名が担当します。庶務（事務局）・設置校長部会を東根小、調査対策を烏山北小、会計を砧小、通級研を神南小、全体研究会を九品仏小、懇親会を駒沢小が担当しています。

日々の通級指導の充実、研究活動の円滑化、運営についての課題の解決が図れるよう、事務局として微力ながら尽力して参ります。どうぞよろしくお願いいたします。

編集後記

ご多用中の折、原稿をお寄せいただいた皆様に厚くお礼申し上げます。今年度は新設学級や中学校のきこえの支援についても紹介していきたいと思えます。本会報を日々の教育活動に役立てていただければ幸いです。



都難言協会報

代表者（会長）鈴木 稔
責任者（広報委員長）福田 俊彦
発行日 平成三十年七月一日
発行数 五五〇〇部
印刷 有限会社 正陽印刷